

都心臨海部における夜間景観のあり方検討について（審議）

都心臨海部においては、これまで景観計画や都市景観協議地区（ガイドライン）等により、地区ごとの特性を生かした落ち着いた夜間景観形成を行ってきました。一方、ナイトタイムエコノミーの推進や技術の進歩などにより、夜間景観を都市の魅力づくりに活用する機運がより一層高まっています。そこで、今後の夜間景観のあり方について、ガイドラインなど誘導方法を含めて検討を行い、横浜ならではの新たな魅力創出を目指します。

○前回いただいた主なご意見

- ・横浜らしい景観として都市の構造（特に公共施設）を見せるべき。
- ・夜間景観のベースとなる部分と、それに付加する演出とをはっきり分けることが必要ではないか。

○本日の審議事項

- ・横浜の夜間景観の特徴の把握について
- ・これからの夜間景観のあり方検討の方向性について

1. 横浜都心臨海部の夜間景観をとりまく状況

立地特性	これまでの夜間景観の魅力づくり	イベントの増加	ナイトタイムエコノミーの推進
<ul style="list-style-type: none"> ・海を取り囲むインナーハーバー ・大小様々な内水面 ・平坦な地形 ・高層ビル群の林立 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区ごとの特性を強調し、落ち着いた夜間景観を創出 ・歴史的建造物や街のシンボルを際立たせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的建造物等のカラーライトアップイベント ・プロジェクションマッピング等の大型投影広告物 	<ul style="list-style-type: none"> ・他都市にはない、夜間に人を呼び込む魅力の創出が求められている

2. 夜間景観の主な課題と可能性

都市としての魅力や横浜のブランド力をより一層高めていくためには、これまでのまちづくりではぐくまれてきた様々な資源を生かしながら、横浜ならではの景観を、夜間においても、より魅力的なものにしていくことが必要です。

（1）夜間景観の新たな魅力づくり

これまでの横浜らしい落ち着いた夜間景観の形成に加え、以下の点に対応していく必要があります。

① 魅力的な特別演出を可能とする	② 演出を魅力的に行う	③ 日常と非日常の区別
インナーハーバーのスケール感を活かした一体感のある夜景演出など、魅力的な演出は、横浜ならではの魅力になりうる。一方、地区ごとの考え方や屋外広告物条例の基準に合わない場合があるため、魅力的な演出が可能となるよう、考え方や基準を整理する必要がある。	シンボルを魅力的に演出するための基準が無く、建物特性に合わない色でのライトアップなどが実施されているため、魅力的に演出できるように基準を整理する必要がある。	特別な演出がところ構わず増加すると、横浜の魅力である常時の落ち着いた夜間景観やエリアごとの特徴ある景観が楽しめなくなるため、常時とのメリハリをつける必要がある。

（2）夜間景観を楽しむ環境の整備

夜間景観の魅力アップに加え、来街者がより一層横浜の夜景を楽しめるよう、環境を整えていく必要があります。

① 多様な場所から楽しめる環境（回遊性、多様な視点場）	② 安全・安心な歩行環境
眺望点（例：大さん橋）などの決まった場所から眺めるだけでなく、歩行者の目線や船等の海上からの眺望、また高層ビルからの見下ろしなど、多様な場所から夜間景観を楽しめることが横浜ならではの魅力となっている。そのため、様々な場所に行きたくなるように歩行経路を整備するとともに、多方面から見て楽しめるような夜間景観を形成する必要がある。	歩行者空間では夜間暗い場所があり、光環境の点からも安全・安心な歩行環境を整備する必要がある。

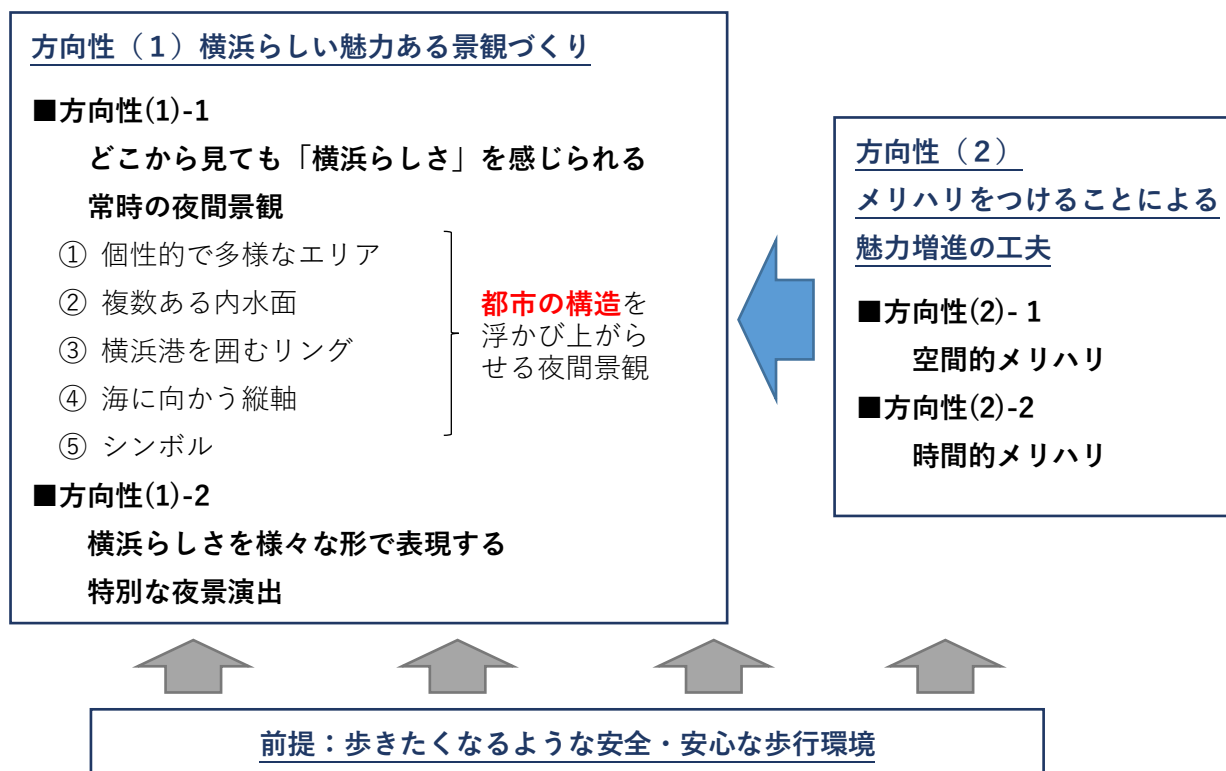
3. これからの夜間景観の方向性

以上のような、横浜の夜間景観をとりまく状況や課題・可能性を踏まえ、これからの夜間景観のあり方について、以下の方向性で検討を進めています。

【これからの夜間景観の方向性】

横浜ならではの魅力をしっかりと感じられつつ、
 メリハリがあり、多様に楽しめる夜間景観をつくる

これまでの横浜らしい落ち着いた夜間景観に加え、市民や来街者の方々が、様々な新しい表現で「横浜らしさ」を感じられ、様々な場所から見ても、横浜でしか味わえない「その場所らしさ」が感じられる夜間景観を形成していきます。



詳細は裏面へ→

前提：歩きたくなるような安全・安心な歩行環境

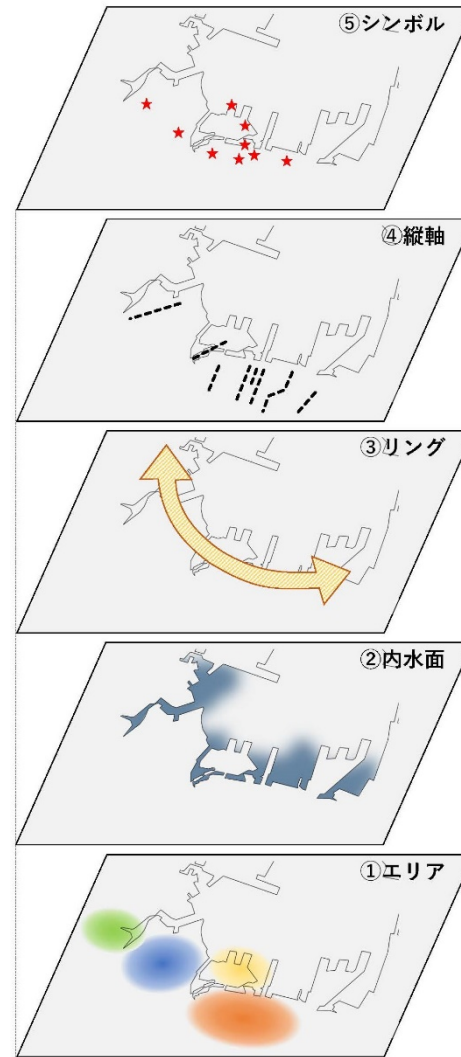
夜間景観を安全・快適に楽しめるよう、歩きたくなる、行きたくなる環境づくりを、光環境の面からも整えていきます。

方向性（1） 横浜らしい魅力ある景観づくり

■方向性(1)-1. どこから見ても「横浜らしさ」を感じられる常時の夜間景観

どこから見ても「横浜らしさ」を感じられる常時の夜間景観をしっかりと形づくるため、都市の構造が感じられる夜間景観とします。

構造① 個性的で多様なエリア
街の成り立ち等により個性あるエリアが隣り合って存在しており、それぞれの違いを楽しむことができる。
構造② 複数ある内水面
河口等により複数の内水面が存在しており、水面を挟んだパノラマ景観を様々な場所で楽しむことができる。
構造③ 横浜港を囲むリング
内港に沿って湾曲した通りは、複数のエリアを横断し、エリア同士の違いや水辺の空間を楽しむことのできる動線となっている。また、海上からは、複数のエリアを一望できるパノラマ景観を楽しむことができる。
構造④ 海に向かう縦軸
縦軸状に存在する商店街などは、歩行者にとって海側へのアプローチとなる空間であるとともに、通りごとの違いを楽しめる空間でもある。
構造⑤ シンボル
歴史的建造物や港町らしさを感じる施設等、横浜やそのエリアを象徴する施設は、その特徴を魅力的に演出する照明を行う。



「横浜らしい」常時の夜間景観の構成要素

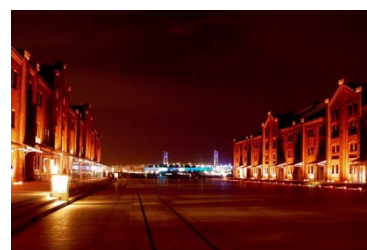
構造① 個性的で多様なエリア

特色の異なるエリアが隣り合い複数存在していることが魅力となっている。そのため、これまでの景観づくりの考え方を継承し、街の成り立ち等により特色をもつエリアごとに、夜間もその特色を感じられるような景観を形成する。

例) 関内：歴史的建造物へのライトアップが引き立つよう、周辺施設では壁面照度等に配慮し、全体として落ち着きのある夜間景観を形成する

MM 中央：高層ビル頂部の照明によりスカイラインを際立たせるとともに、建物低層部のアクティビティフロアは 3,000 ケルビン程度の暖かみのある光により賑わいを演出する

MM 新港：・温かみのある 3,000 ケルビン程度の光により、エリアのシンボルである赤レンガ倉庫の雰囲気エリア全体で感じさせる
・海に囲まれた“島”であることが内外から感じられる夜間景観となるよう工夫する（橋の演出、水際線のライトアップ等）



赤レンガ倉庫

構造② 複数ある内水面

河口等により複数の内水面が存在しており、様々な場所で水面を挟んだパノラマ景観を楽しむことができる。内水面を囲むパノラマを意識し、夜間においても内水面に向けてしっかりと顔をつくる。

例) MM 中央と横浜駅東口周辺との間の内水面、自動車道周辺 など



自動車道からのパノラマ

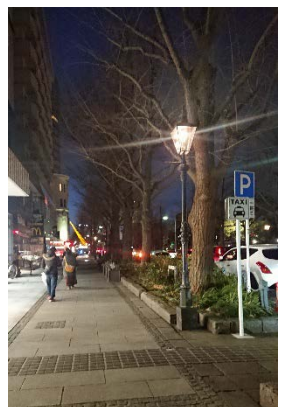
構造③ 横浜港を囲むリング

内港に沿って湾曲した水際線やそれに並行する通りは、多くの来街者が複数のエリアを行き来するための動線となっている。また海上からは、複数のエリアが一望できるパノラマ景観が広がっている。歩行者空間の照らし方を統一したり、水際線においては水面への映り込みを意識するなど、複数のエリアを貫くリング状の繋がりを意識し、夜間景観を形成する。

例) 関内：海岸通り～山下公園通りのガス灯プロムナード（北仲通地区方面から関内の中心部へ歩行者を誘っていく）

MM 中央：グランモール軸（歩道に埋め込まれた夜光海ペイブと沿道からの漏れ光により、安全・安心で落ち着いた歩行者空間をつくる）

MM 新港：水際線プロムナードの照明（水辺の空間を楽しめるようにグレアを減少させる）



ガス灯プロムナード

構造④ 海に向かう縦軸

商店街などが縦軸状に点在し、既に夜間も含めて特色ある景観形成がなされてきている。歩行者にとっても海側へのアプローチとなる空間であり、特色ある灯具を用いた光の演出を行うなど、通りごとの違いが楽しめるような夜間景観を形成していく。

例) 関内：・日本大通り（景観重要樹木であるイチョウが美しく映えるよう演出する）

・中華街大通り（提灯やランタン等の赤い光により賑わいを演出する）

MM 中央：キング軸（樹木のライトアップや足元照明などにより、緑の軸線を強調したスケール感のある演出を行う）



中華街の赤い光

構造⑤ シンボル

歴史的建造物や港町らしさを感じる施設など、横浜やエリアの特徴を象徴する施設については、その特徴を効果的に魅せる照明計画により、横浜やエリアの特徴を昼間とは異なる形で印象づける演出を行う。

例) 関内：歴史的建造物のライトアップ+周辺施設の落ち着いた

MM 中央：超高層ビルのスカイラインの強調

MM 新港：赤レンガ倉庫のライトアップ



スカイライン

■方向性(1)-2. 横浜らしさを様々な形で表現する特別な夜景演出

特別感を楽しんだり、普段とは違う形で横浜らしさを感じることができるよう、常時の夜間景観と異なる魅力的な演出を誘導します。

また、魅力的な演出の実施に際しては、港のスケール感を活かした複数エリアをまたぐ演出や、プロジェクションマッピングなどの「屋外広告物」に該当する演出など、従来の基準では困難だった演出を可能にするため、基準を整理し、必要な変更を行います。

方向性(2) メリハリをつけることによる魅力増進の工夫

暗さ(影)との対比の中での輝きが魅力となる光の特性を捉え、メリハリをつけることで、より魅力ある夜間景観を形成します。

■方向性(2)-1. 空間的なメリハリ

シンボル施設を光らせる一方で、その周囲では控えめな照明とするなど、敷地同士の光の演出に強弱がつくよう誘導します。また、一敷地内の光の演出においても、来街者を迎えるゲート空間は明るくし、それ以外の部分は落ち着いた光とするなど、メリハリのある演出を誘導します。

■方向性(2)-2. 時間的なメリハリ

常時の夜間景観とイベント時の晴れやかな演出をどちらも楽しめるようにするためには、両者を区別することが必要です。イベント時の演出が特別感を持つよう、常時の落ち着いた景観づくりを進めるとともに、特別演出の頻度や期間・演出時間については調整を行い、演出の自由度は高めるなどして、よりメリハリの効いたクオリティの高い夜景演出を目指します。

4. 今後の予定

以上の方向性をもとに、都心臨海部全体の夜間景観の大きな考え方をガイドラインとしてまとめます。

また、関内・MM 中央・MM 新港の3地区については、エリアごとの考え方を整理し、既存の景観計画・都市景観協議地区や地区別ガイドラインの内容とも照合しながら、令和3年度にかけて必要な変更を行っていきます。